

【第3回セミナー参考資料】

ベトナム企業がラオス南部にゴム・プランテーションを立ち上げ、  
地元住民の生活に影響を与え森林を破壊

ワールド・レインフォレスト・ムーブメント会報 第113号

2006年12月 クリス・ラング著

2004年7月、ベトナム・ジェネラル・ラバー社からの派遣団がラオスを訪れた。この時点で南部ラオスは小規模な範囲でゴムの木が植えられていただけだった。ラオスのトンレン・シースリット副首相は「我々はベトナムに対し、ゴム・プランテーションのために5万から10万ヘクタールの土地を提供することが出来る」とこの代表団に伝えた。

数ヶ月後、ラオス政府はベトナムの国有会社であるダクラク (Dac Lac) ・ラバー社による3000万米ドルのプロジェクトを認可した。ダクラク・ラバー社は、同社が14,000ヘクタールのゴム・プランテーションを持つベトナムの中央高地に位置するダクラク省にちなんで名付けられている。この会社は50年借地契約で、チャムパサック、サラワン、セコン、アタプー県に於いて1万ヘクタールのゴムを植林することを目指している。

「ベトナム・エコノミック・タイムズ」はトンレン・シースリットが同プロジェクトを「ラオス国民を商業生産へと適合させることを支援するモデル」だと述べていると伝えている。

しかしダクラク社は森林と村人の土地をゴム・プランテーションへと替えている。同社は商品作物の農地喪失には補償金を払っているが、焼畑地の喪失には払っていない。このゴム・プランテーションを設立する以前の土地は、大部分が水田、休閑地、そして森林が混在したものだった。同社はそれを単に「荒廃した森林」と断言して整備してしまった。

2005年5月、別のベトナム企業がチャンパサック県での操業を始めた。ベトナム-ラオス・ゴム株式会社は合計3000万米ドルの投資で1万ヘクタールの土地にゴムを植林することを計画している。同社は1ヘクタールにつき1年あたり9米ドルの賃借料をラオス政府に払っている。この会社はベトナム・ジェネラル・ラバー社に属している。

2006年12月には、クアン・ミン・ラバー・プロダクション株式会社が、セコン県とアタプー県に4,900ヘクタールのゴム・プランテーションを作る1500万米ドルのプロジェクト契約をラオス国家計画・投資委員会と締結した。

NGO ワールド・レインフォレスト・ムーブメントは先月、ラオスのチャンパサック県マクゲオ村の近くにある、ベトナム-ラオス・ラバー株式会社のプランテーション地域の一つを訪れた。プランテーション内に牛の放牧を禁じる標識が立っている。未舗装道路の片側はつい最近植林されたものである。赤土と1メートルほどの高さのゴムの木の列が遠方まで伸びている。プランテーションの向こう側にはゴムの木を植えるために整地されてしまった森林の形跡が見えた。道のもう片側のゴムの木は少し早く植林されたもので高さ2メートルを越えている。4人のラオス人の村人がゴムの木の周辺の草や小さな灌木を取り除く作業をしていた。村人によると、彼らはこの会社が来たために自分達の土地を失ってしまったという。彼らは共同で作業して一日に約150メートル程度、草や灌木を取り除いて

いる。もっと長い距離を作業できるときもあるし、短い距離しか出来ないときもある。それは雑草の生え具合によると言う。会社は彼らが作業した距離 150 メートルにつき 5 万キップ（約 5.25 米国ドル）を払うので、彼らが受け取るのは一日で 1 米国ドルをわずかばかり超えた額である。

ここでは約 200 人のベトナム人労働者が雇われている。私たちがその場にいたとき 2 人のベトナム人労働者がバイクに乗ってやって来た。一人はラオス語を話し、他の労働者達に指示を与えだした。彼は約 1 年前からラオスに滞在しているという。

道をもう少し先へ進むと、ゴムの木の苗床があった。ゴムの木から切り取られた挿し木が小さなプラスチックの袋の中のたい肥に植えられている。挿し木が新しい葉を出し、根を伸ばすと植林される。挿し木はベトナムから輸入されている。

数年前、マレーシアの油ヤシ会社がこの近くに試験的なプランテーションを立ち上げたが、今では打ち捨てられ油やしは伸び放題である。その油ヤシプランテーションの近くには新しく開墾されたゴムのプランテーションがあり、フェンスと溝で囲まれて牛が中に入れないようになっている。

2006 年 5 月、ビエンチャンでの「ラオスにおけるゴム産業の発展」というワークショップにおいて、ラオス森林調査センターの副所長ストーン・ケートパーンは、中国でのゴムの市場需要が、ラオスのゴム・プランテーションに対する中国及びベトナム企業からの投資を呼び込んでいると説明した。中国からの投資はラオス北部を、ベトナムからの投資はラオス南部を対象としている。

「ビエンチャン・タイムズ」によれば、ストーンはゴム・プランテーションの利点をこう述べている。「他の換金作物と違い、ゴムは 30～40 年といった長期に渡る利益を農民にもたらす。農民はゴムの樹液を取れるだけでなく、最初の数年は間作することによって、また、ゴムの樹液が尽きたときには木材を売ることにより利益を上げられる。」

その会合の出席者は世界市場におけるゴムの価格が「景気の波」に翻弄されるものであり、ゴムの木を栽培する会社や農民に災いを及ぼす可能性のあることに言及した。専門家は回復すると予想しているものの、2006 年の 5 月以来ゴムの価格は急落している。

ストーンは問題も認め、ビエンチャンでのワークショップではこうも語った。「一方で、ゴム・プランテーションの急速な成長は森林資源の大規模な損失や河川の流域破壊を引き起こしている。それは農村部の食糧安全保障が森林環境に直接関連しているラオスにおいてきわめて重要なことである。」